様式１

呉市　企画課 宛
〒737-8501　呉市企画課
Tel　0823-25-3274
FAX　0823-21-8849
E-mail　kikaku@city.kure.lg.jp

意　見　書

案 件 名	過疎地域持続的発展計画（案）※
ご 意 見	

【１】　はじめに

私たち観光ボランティアは、全国から来訪する観光客から、または各地を旅行して、或いはテレビ・雑誌などのメディアを通して、様々な観光情報やアイデアに接します。　それは本件「過疎地域持続的発展計画」にも通じる処は多いと考えています。

しかし本計画（案）には、人口減少、少子高齢化、教育、福祉、産業、交通、医療、・・・等々、非常に多岐分野にわたり多数アイテムの施策（案）が記載されていること、及び「特別措置法」とか、「第５次呉市長期総合計画」等についても不勉強な為、私的には、計画（案）全体の主旨はよく理解できない部分が多くあります。　従って一部分のみ捉えてコメントするのは適切か否か、戸惑いもありますが「観光関連アイテム」について、一観光ボランティアの視野で思い当る処をコメントさせて戴きたいと存じます。

【２】　当該計画（案）について「観光ボランティア」の視点からの所見

２－１　コメントの基本発想

先ず、本計画（案）前文に「過疎地域の状況及び今後の見通し」として諸分野の現況や課題が記されていますが、その中で「最も深刻、かつ最も重要な課題」は、「人口減少対策」だと考えます。

それは、人口減少が限界を越えて進めば、福祉、厚生、交通、利便性、教育、医療等・・・全てに亘って、有効な施策が不可能に陥る「全ての課題の根源」とみられるからです。

しかもその対策は「他地域から移住者を招致する」以外、有効な方策は考えられません。

> 過疎の状況【現在の課題及び今後の見通し】　（当該計画（案）一部抜粋）
> 人口減少・少子高齢化の進展によって，生活面では，商店の減少や診療所の廃止などで，生活に必要な集落機能が低下するとともに，地域公共交通の維持も大きな課題となっています。　産業面では，農水産業の就業者の高齢化や後継者不足が進んでおり，これまで地域 経済を支えてきた産業の衰退により，地域の活力が低下しています。さらには，自治会や地域行事などの地域活動の担い手の確保も困難な状況となるなど，引き続き厳しい状況が続いています。また，急速に進む人口減少によって，過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法では，新たに旧音戸町と旧川尻町が過疎地域として指定されることとなりました。 今後も，国全体の人口が減少し，少子高齢化がますます進展していく中で，過疎地域においては，その傾向は更に顕著になると見込まれ，これまでのような地域社会の維持が困難になってくることが懸念されています。

２－２　当該計画（案）の主意（狙い）について

それに対し、当該計画（案）には、『令和 12 年度（2030 年度）末における呉市の都市像』が示され、それ

を実現する基本方針として、教育、文化、福祉、産業、市民生活、都市基盤・・・等々、政策分野ごとに具体的事業内容が記されています。

それは、

① 過疎地の《豊かな自然》に加え、

② 教育、文化、福祉、産業、市民生活、都市基盤・・・等々、各々の政策分野にわたり諸課題の整備・改善を進め、《豊かな暮らし》のレベルアップを計る

その相乗効果で「人口の流出の抑制と、流入の促進」を計るのが狙いと理解されます。

【令和 12 年度（2030 年度）末における呉市の都市像】
誰もが住み続けたい，行ってみたい，人を惹きつけるまち「くれ」
～イキイキと働き，豊かに安心して暮らし，ワクワク生きる～

パブリックコメント（1）　*** 呉だからできる、呉でなければできない将来都市像 ***

しかし移住者にとって、「移住先の候補地」（数）は ほぼ無数です。　呉（過疎地域）と類似の自然環境地も沢山あります。　然もその中から選ばれる地域「勝者」は１ヵ所のみです。

それは不特定多数との「競争」に勝たなければ、過疎地の「人口減少」は止められません。　しかも持続的発展にはかなり高い勝率が必要です。

それは観光客誘致も同様ですが、【呉（過疎地域）の将来都市像】は『呉だからできる、呉でなければできない』（差別化ポイント）をもっと具体的に盛込んだ設定が必要ではないでしょうか？

２－３　地域の特徴を生かし夢ロマンのある「将来ビジョン」

しかし、移住（予定）者には、過疎地の「教育、文化、福祉、産業、市民生活、都市基盤・・・等々」が充実しても、だから（移住先に選ぶ）決め手にはなり難いと思います、

それよりも、過疎地に移住を志す人には、趣味や生き甲斐享受とか、ベンチャー起業家の力量が試せる土壌とか、都会と違う自然＋人間環境とか、人情味の通うコミュニティとか、将来発展の可能性とか、老後の生活設計見通し・・・等々、「夢と希望のもてる将来ビジョン」が重要ファクターと考えます。

それには、箱ものや、制度見直しなどに重点をおく「旧来型施策」と切離して、社会的関心を（呉に）向ける施策とか、住民パワーを活用する「住民ぐるみ協力体制」の構築を目指し、対話の場とか、講演会とか、セミナーとか、色々な催しとか、・・・等々の施策に視野を向けるべきと考えます。

例えば、下表は「第二の人生の生き甲斐を模索する人」や「富裕者」をターゲットに、マリンスポーツ事業を誘致して「持続的発展」→最終的にはニュータウン造成の可能性を見込む「ビジョン（例）」です。

段階	各期間計画の主な狙い		各段階の重点施策		各段階で整備する施設等
①	移入者を呼び込む	→	現地魅力の情宣・ＰＲ活動	→	呉特有の将来ビジョン情宣活動
②	「移入者が移入者を呼ぶ仕掛」の構築	→	呉の認知度を全国に広める 趣味や健康増進施設	→	観光客誘致の拡大 ﾖｯﾄﾊｰﾊﾞｰ、ﾏﾘﾝｽﾎﾟｰﾂ、ｷｬﾝﾌﾟ施設等
③	移入者の定住化促進	→	既住民と移住者の融和	→	セミナー、地域行事開催等
④	定住者の永住化	→	起業家サポート	→	別荘地等、
⑤	将来世代への引継ぎ（最終のビジョン）	→	住環境整備 移入者年齢に合わせた施策 子孫に引き継ぐ施策	→	高齢者施設、福祉施設 ニュータウン造成

但し、上表は単なる私案の例示です。　専門家や事業家や起業家などを交えて英知を集める、或いは公募等により、もっと具体的かつ魅力的なビジョンが多数創出されることを目論んでいます。

パブリックコメント（2）　　*** 移住（予定）者をターゲットにする「将来ビジョン」***

過疎地発展には、現実的に可能な方策は、『他地域から移住者を招致する』以外には考えられません。　しかしそれは、不特定多数地域との競争に勝たねばなりません。　それは「豊かな自然」とか「誰もが住み続けたい・・・云々」などの旧来型施策では、移住者を惹き寄せるにはインパクトが弱小です。

「過疎地域持続的発展計画」は、それと切離して、趣味や生き甲斐追及の場とか、ベンチャー起業家の力量が発揮できる風土とか、都会とは違う人情味の通うコミュニティとか、地域の将来的発展性や、老後の生活設計・・・等、移住者のニーズに特化した『夢と希望の湧く将来ビジョン』を、皆が共有しながら政策立案していくことを提案します。

※「将来ビジョン」は、「将来の可能性（＝夢）の見える化」です。　将来起こり得る様々なケースを想定して様々なビジョンを「移住者と地域住民」双方が共有することで、次の様な効果が狙いです。

① 夢と強い期待の目を（呉に）向ける人（候補者のパイ）を拡大する
② 地域住民と移住者 双方一体となった計画推進体制、及びコミュニティづくり
③ 地域住民と移住者 双方融和し「移入者が（新たな）移入者を呼び集める」仕組み構築、
④ 外部動向等に伴い、計画の修正や変更等に対し、住民合意などの対処が素早くできる

【３】「観光振興分野」の位置づけについて

当該計画（案）には「観光振興」が基幹産業と位置づけられています。　人口減少に苦しむ過疎地域にあっては、現地の魅力や、呉市の名声が全国に認知される為にも、観光振興を過疎地発展計画推進の基幹に位置付けることは極めて適切と考えます。

過疎地域持続的発展計画（案）の中の観光関連事項　　（抜粋；要約）
○地域の歴史や文化，自然等の特性を生かしながら，観光客のニーズに応じた付加価値の高いサービスを提供することで，滞在時間の延伸と観光消費額の増加を図り、観光による過疎地域の活性化を図っていきます。 ○ 歴史・文化の例として，ユネスコの「世界の記憶」に登録された朝鮮通信使；「松濤園」や、国の重要伝統的建造物群保存地区；「御手洗の町並み」・・・等々や、芸灘 諸島の多島美を一望できる「野呂山」など、豊富な観光資源を活用し・・・云々。

３－１「観光振興の推進母体」の問題

パブリックコメント（3）　　*** 既存の観光関連団体と一体化した観光振興 ***

しかし、本件の「観光振興」は、誰が主体でどの様に推進するか（推進母体が）はっきりしません。　常識的には「既存の観光関連団体」を活用すべきと考えますが、それには次の様な課題があります。

つまり現在、呉には大和ミュージアム、旧市内、及び各地域の観光ボランティアグループや、町おこし団体などが、それぞれの担当区域で活躍しています。

しかし各グループや団体は、何れも横並び組織で独立運営されており、全体を統括するリーダーも、互いに連係協力し合う仕組みにもなっていません。　それに各グループや団体の活動目的や方針も、当該計画（案）に示されている目的とは必ずしも一致しません。

それは、」観光関連団体の仕組みが改まらなければ有効に機能しません。　本件のみならず「呉観光振興」の強力推進にも非常に不合理ですが、何かきっかけがなければ長年定着した仕組みは改まりません。

本件を機に、呉市役所や、観光協会や、既存の街おこしや、観光ボランティアグループなどが、一丸となって連係協力体制の課題として提起されるべきと考えます。

３－２　住民ぐるみボランティア体制の構築

そうは言っても観光ボランティアなどの観光関連団体が、接する観光客は、全体の１％にも達しません。それより最近の観光急伸地では、団塊世代退職者などが、観光や街づくり活動に興味をもち、事実上「住民ぐるみ」ボランティア働きや、斬新なアイデアを発案してメキメキ頭角を現わすケースが常態化しています。　「住民パワー」活用は、観光振興に限らず、他のあらゆる行政施策にも通じます。　それは最近伸し上ってくる市区の「共通条件」と言えます。

特に、移住者を招致し、移住者が地域社会に馴染み、住民と共に快楽に過ごすことが原則の「過疎地域持続的発展計画」では、必須条件と考えます。　（※「パブリックコメント（２）」に指摘済）

【４】追　記

以上、一観光ボランティアの視点で思い当る処を記しました。　しかし冒頭にも記した通り、当該計画（案）全体を通しての主意が十分理解できた上でのコメントはありません。　特別措置法や、第５次呉市長期総合計画等についても不勉強な実情での「思い付き」ですので、パブリックコメントとして不具合な場合はご容赦下さい。

住　所	呉観光ボランティアの会		
氏　名	大方 雅道	電話番号	080-3885-5751 email; okt1507tr@ybb.ne.jp
受領通知	☑		

受領通知を希望される方はチェック欄（☐）にチェック（✓）を入れてください。
ご意見に対する市の考え方については，別途，ホームページと市民センターでお知らせします。

※　本計画は，下蒲刈町，蒲刈町，豊浜町，豊町，音戸町，倉橋町，川尻町の７地域が対象です。

- 賛否であったり，募集内容に関連のないご意見の場合などについては，市の考え方をお示しできない場合があります。
- 法人，その他の団体にあっては，「住所」欄に事務所又は事業所の所在地，「氏名」欄に名称，担当者の氏名をご記入ください。
- ご意見の内容について，お問い合わせをさせていただくことがありますが，それ以外の目的で個人情報を使用することはありません。